

2024年3月12日（火曜）

全労金2024春季生活闘争ニュース・第13号

～勝ち取ろう賃金改善！進めようジェンダー平等！みんなで一歩先のステージへ！～

全労金「第7回災害からの復興・再生集会」を開催しました

◎1日目『フィールドワーク』を実施

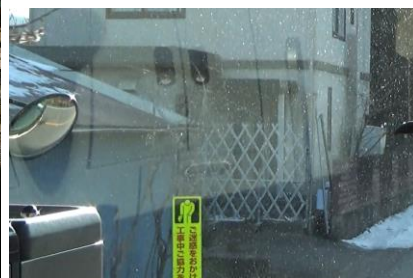
1日目は、開会集会後、フィールドワークを実施しました。フィールドワークでは浪江町の震災遺構となった「請戸小学校」、双葉町の「原子力災害伝承館」を訪問し、東日本大震災の発生に伴う津波被害の脅威と福島第一原子力発電所の事故がもたらす「複合災害」について学びました。また、「原子力災害伝承館」から少し離れた場所では未だに自宅にバリケードがあり、手付かずのままになっている光景を車窓から確認しました。復興が進んでいる地域がある一方で、原発事故後、未だ時間が止まったままの場所があり、復興が進んでいない実態があることを参加者全体で共有しました。



請戸小学校の様子



原子力災害伝承館の掲示物



自宅に入出入りできない状況
(双葉町)

◎2日目『講演』『分散会』を実施

2日目は、福島県教職員組合双葉支部の日野書記長より「震災から13年～双葉郡の小・中学校の現状と放射線教育～」と題して発災当時の勤務状況、子どもと教職員の心のケア、震災以降の教育現場の課題、放射線教育の必要性について、自身の体験を踏まえ講演をいただきました。「放射線教育は将来福島県外で生活する際、放射線に関する正しい情報を伝えている。なぜ学習が必要なのか、差別や偏見がなぜ起こるのか、自分が受けたらどう対処するかといった観点で段階を踏んで学習をしている」と、放射線被害のみならず、差別や偏見、風評被害に対する対応を学ぶ重要性について説明されました。また、講演の最後には「私たちは原発事故の恐ろしさを目の当たりにした。脱原発の必要性がありつつも、実際に双葉地域がそうであったように、原発立地地域は原発の恩恵を受けているため、脱原発の声を上げるのは難しい。原発の恩恵がなく、被害を受ける可能性が高い隣接する地域から運動をすすめていくことが必要である。福島第一原発事

故を決して風化させてはならない。震災から13年が経っているにも関わらず現在進行形である。福島で見たもの、感じたことを地元に戻って共有いただきたい」と訴えました。

分散会では、フィールドワークや講演を聞いて「復興が進んでいない現実があること」「原発事故により人が住めなくなること」「子どもたちへの心身の影響あること」等、率直な感想を出し合い、自分たちに何ができるのか、今後単組でどのように取り組んでいくべきか、意見交換を実施しました。また、1月に発生した能登半島地震に対して、意見交換を実施しました。

最後に、集会で学んだことを各単組の取り組みに活かしていくことや、全労金「原発に対する考え方」等に基づき、今後のエネルギー政策を考えていくきっかけとすることを確認し合い、全労金「第7回災害からの復興・再生集会」を閉会しました。

以 上



《全労金のSNSを紹介します！》

☆ 全労金HP (<http://www.zenrokin.or.jp/>)



☆ 全労金Facebook (<https://www.facebook.com/zenrokin>)

